

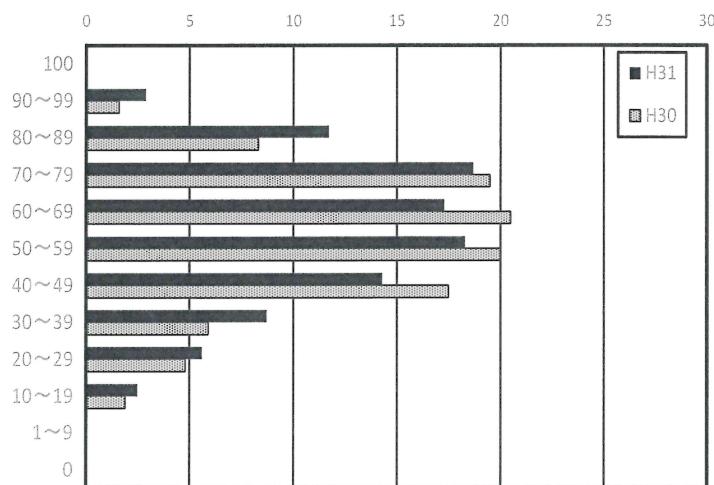
# 社会

## 1 得点分布及び大問ごとの正答率

〈表1〉 得点分布

得点	割合 H31 %	割合 H30 %
100	0.0	0.0
90～99	2.9	1.6
80～89	11.7	8.3
70～79	18.7	19.5
60～69	17.3	20.5
50～59	18.3	20.0
40～49	14.3	17.5
30～39	8.7	5.9
20～29	5.6	4.8
10～19	2.5	1.9
1～9	0.0	0.0
0	0.0	0.0

〈グラフ〉 得点分布



\*合格者の中から、無作為に抽出した630人(13.5%)の結果である。

\*%の数値は、小数第2位を四捨五入したものである。

〈表2〉 大問別の正答率の経年比較

大問	主な内容	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
①	地理的分野	61.8	58.5	62.3	60.5	69.9
②	歴史的分野	56.8	60.5	52.2	61.7	54.7
③	公民的分野	54.9	57.0	45.6	55.0	56.2
④	分野融合	68.9	43.8	45.3	50.8	48.3

## 2 分析結果の概要

合格者の社会の平均点<sup>(※)</sup>は、55.7点で昨年度と比べやや上昇した（昨年度55.5点）。

(※) 平均点は全日制すべての合格者4,678人のものである。

〈表1〉について、70点台の人数が全体の18.7%で最も多い（昨年度は、60点台で20.5%）。70点以上の人数は全体の33.3%で昨年度に比べ増加した（昨年度29.4%）。40点未満の人数は全体の16.8%で昨年度に比べ増加した（昨年度12.6%）。

〈表2〉について、分野別の正答率は①（地理的分野）の問題が最も高かった。昨年度との比較では、②（歴史的分野）と④（分野融合）が低くなり、①（地理的分野）と③（公民的分野）は高くなった。

「3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい・正答率」について、正答率80%以上の問題数は4問で、昨年度に比べ減少した（昨年度5問）。資料を用いて基礎的・基本的な知識・理解を問う問題の正答率が高かった（①の1(1)、1(5)、③の2(3)、④の2(2)ウ）。正答率40%未満の問題数は4問で、昨年度と比べ減少した（昨年度6問）。歴史的分野の資料を基に考察して説明する問題の正答率が低かった（②の1(4)イ）。また、公民的分野の資料を基に考察して表現する問題（③の1(3)）や、分野融合の資料を基に知識を活用して判断する力をみる問題の正答率が低かった（④の1）。

### 3 小問ごとの学年・領域、出題内容・ねらい・正答率

大問	小問	学年・領域	出題内容・ねらい	正答率(%)										
				0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
①	1	地理的分野	六大陸の名称や位置関係について理解している。	94.8										
			資料から12か国の位置や気候、世界地図の特色について、適切な内容を判断することができる。	68.1										
			資料からスペインと中国の貿易の特色について、適切な内容を判断することができる。	62.7										
			中国の主な料理と農業地域との関係について、資料を基に考察し、判断することができる。	65.1										
			ライン川が交通路として重要な役割を果たしてきた理由について、資料を基に考察し、説明することができる。	ア75.4 イ81.7										
	2	地理的分野	阪神工業地帯について理解している。	71.9										
			資料から4都道県の農業の特色を読み取り、適切な内容を判断することができる。	73.7										
			東北地方の夏祭りの特色について、資料を基に考察し、説明することができる。	ア61.2 イ70.1										
			串間市から香港へのさつまいもの輸出量が増加した理由について、資料を基に考察し、説明することができる。	ウ64.7 エ59.7										
②	1	歴史的分野	勘合貿易について理解している。	71.0										
			桃山文化の特色について理解している。	52.1										
			資料から各時代の特色を読み取り、時代の流れを判断することができる。	57.8										
			御成敗式目が制定された時代背景とその理由について、資料を基に考察し、説明することができる。	ア43.0 イ34.3										
			聖徳太子が行った政治と隋との関係について、資料を基に考察し、説明することができる。	45.0										
	2	歴史的分野	「古事記伝」を書いた人物について理解している。	79.5										
			第二次世界大戦後の我が国と世界の動きについて理解している。	52.4										
			19世紀に欧米諸国がアジアに進出した背景について、資料を基に説明することができる。	ア41.7 イ68.7										
			長野県からの満州への移民が日本で最も多かった理由について資料を関連づけて考察し、説明することができる。	ウ59.3 エ64.2										
③	1	公民的分野	国会の議決の仕組みについて理解している。	48.9										
			資料をとおして一票の格差について判断できる。	60.1										
			憲法改正の手続きで国民投票が行われる理由について、資料を基に考察し、説明することができる。	ア32.1 イ33.3										
			裁判員制度の課題と国民の司法参加の意義について、資料を基に考察し、説明することができる。	ウ62.8 エ67.5										
			排他的経済水域について理解している。	70.2										
	2	公民的分野	政府と日本銀行の役割について理解している。	76.3										
			ワークライフバランスの考え方について理解している。	88.3										
			国際連合の組織の概要や役割について理解している。	46.6										
			外国人労働者の受け入れが拡大されようとしている背景について、資料を基に考察し、説明することができる。	ア59.0 イ47.6										
			地理的分野における日本の地形、歴史的分野における大和朝廷による統一と東アジアとのかかわり、公民的分野における地方自治の仕組みについて理解している。	29.1										
④	1	分野融合	社会増と自然増について、資料を基に考察し、説明することができる。	ア45.3 イ47.9										
			日本や地域の人口減少をおさえる対策と、そのように考えた理由について、選んだ資料を基に考察し、説明することができる。	ウ95.7 エ61.1 オ53.8										

## 4 特徴的な問題

### 1 地理的分野

(4) 純一さんは、資料1の宮崎県の産業について調べていく中で、資料5を見つけ、下のようにまとめました。資料6, 7をもとに、**ウ**, **エ**に入る適切な内容を書きなさい。

資料5 宮崎県の産業に関する資料	
串間市の特産品のさつまいもで、国内では需要の少ない小さなものが、香港で人気となった。輸出量は、当初は2トン程度であったが、平成25年は380トンと大幅に増加した。	写真 輸出用 国内用

### 資料6 香港に関する資料

香港では、さつまいもを電気炊飯器などで蒸して食べるのが一般的で、蒸し時間のあまりからなり小さいサイズが好まれている。

(「神戸税関資料」他より作成)

### 資料7 串間市のさつまいもに関する資料

温暖な気候を利用して、5~11月という期間に収穫され、その後も、貯蔵したものを出荷できる体制を整えている。

写真

(資料5, 7「農林水産省資料」他より作成)

### 純一さんのまとめ② (一部)

串間市の小さなさつまいもが香港で人気となり、平成25年の段階で、輸出量が大幅に増加したのは、資料6から、調理方法や大きさなども含めて、香港の**ウ**に対応しており、資料7から、**エ**を可能にしたからだと考えられる。

<標準解答> **ウ** (例) 食文化

**エ** (例) 年間を通した出荷

### <ねらい>

この問題は、串間市の小さなさつまいもの香港への輸出量が、平成25年の段階で大幅に増加した理由を、資料から考察して説明する問題である。

### <分析>

正答率は、**ウ**が64.7%、**エ**が59.7%であった。課題としては資料から語句を抜き出して答えとする解答が見られたので、社会科での学習内容に関連付けた記述・表現ができることが考えられる。

### <提案>

授業において、地理的事象を一面的に捉えるのではなく、問い合わせ工夫することで、地域的特色や地域の話題に関心をもたせたり、資料から読み取れることを適切に表現する能力を育成したりしていくなどの工夫が必要である。

### 2 歴史的分野

(4) 加奈子さんは、下線部にに関して調べていく中で、資料3を見つけ、「なぜ長野県の満州への移民の数が日本で最も多かったのだろう」という疑問をもち、下のように仮説を設定しました。資料4, 5を関連づけて、**ウ**, **エ**に入る適切な内容を書きなさい。ただし、**ウ**には、「まゆ」「収入」という語を使って書きなさい。

資料4 長野県の農家とまゆの価格に関する資料	
世界恐慌が起る前、長野県の多くの村は、農家の70%以上が養蚕を行い、農業収入の80%近くを養蚕にたよるようになっていた。 『蚕を飼育して、まゆを作らせること	

資料3 満州への移民が多い4県		
順位	都道府県名	人数(人)
1	長野	37859
2	山形	17177
3	熊本	12680
4	福島	12673

加奈子さんの仮説  
長野県の満州への移民の数が日本で最も多かったのは、資料4から、養蚕への依存度が高かった農家が、世界恐慌によって、**ウ**ため、資料5から、**エ**からだろう。

### <標準解答>

**ウ** (例) まゆの価格が暴落し、収入が激減した

**エ** (例) 生活を立て直すため、国や県などの呼びかけに応じて、満州にわたった

### <ねらい>

この問題は、長野県の満州への移民の数が日本で最も多かった理由について、仮説の内容を2つの資料を関連づけて考察し、説明する問題である。

### <分析>

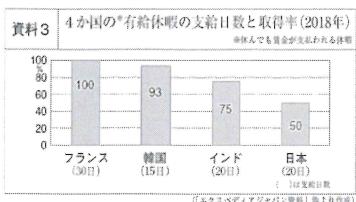
正答率は、**ウ**が59.3%、**エ**が64.2%であった。課題としては、**ウ**についてはグラフの正しい読み取りとともに、価格と収入の関係について理解し、その説明を行うこと、**エ**については資料4と資料5を関連させ、市民生活と政策との関係性を説明する記述ができるかなどが考えられる。

### <提案>

授業においては、歴史的事象の背景や要因を、様々な角度から着目させ、捉えさせる学習活動が大切である。また、「なぜそこでそのような変化が見られるのか」、「なぜこのような結果になっているのか」などの問い合わせを設定することで、資料から読み取れることを発表させたり、議論などを行って考え方を表現させたり、深めさせたりするなどの工夫が必要である。

### ③ 公民的分野

(3) 洋一郎さんは、資料1の下線部cに関して調べていく中で、資料3を見つけ、次のように発表原稿にまとめました。資料3をもとに、□に入る内容として最も適切なものを、下のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。



洋一郎さんの発表原稿①(一部)  
日本の企業や政府は、資料3のような現状を改善するために、□ことに取り組んでいます。

- ア 消費者の保護や環境により商品の開発などで、企業が積極的な役割を果たす  
イ 企業がたくさんの商品をまとめて仕入れ、流通費用の削減を図ろうとする  
ウ 過度な労働によって、私生活や健康がそこなわれることのないよう配慮する  
エ 失業者の生活を保障したり、職場を紹介したりして、働く権利を守る

### <標準解答>

ウ

### <ねらい>

この問題は、資料からワーク・ライフ・バランスの概念を読み取り、その内容を選択する問題である。

### <分析>

正答率は、88.3%であった。グラフを読み取り、そこから具体的な社会的事例をイメージし、関連させて考えることができていた。

### <提案>

授業では、現代の社会的事象を単なる語としてではなく、概念として習得させる工夫が必要である。また、基礎的・基本的な知識の確実な定着に加えて、現代社会の諸課題について具体的・体験的事例を積極的に取り上げて、生徒に発表させたり、考察させたりするなどの工夫が必要である。

### ④ 分野融合

1 貢子さんは、宮崎県の地域活性化について調べていく中で、資料1を見つけました。資料1に関する内容として、最も適切なものを、下のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

資料1 宮崎県の古墳景観が日本遺産に認定されたことにに関する資料(一部)

「古代人のモニュメント 一石地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観」

2018年の5月、宮崎県の古代人のモニュメント「一石地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観」(西都原、新富町、宮崎市)を含む全103石が「日本遺産」に認定された。認定された4か所の古墳群と後穴群は、造られた当時の形が保たれることなく残っている点が評価された。日本遺産に認定されると、地域の活性化につなげる取り組みに対して、初年度に4000万円、2年目には2000万円、3年目には1000万円程度の補助が受けられる。

西都原の石堆上にある西都原古墳群には、朝鮮半島との交流もあった古墳時代中期(5世紀)に造られた九州最大となる全長175メートルの「女狭槌(めさは)塚」をはじめ、大小の古墳319基が集まる。また、宮崎平野全体では、西都原と新富町にまたがる新田原古墳群、宮崎市の佐伯古墳群など、約700基の古墳が広がっている。

今回の日本遺産の認定を受けて、古墳群の背景にある歴史ロマンも生かした地域の活性化が期待されている。

西都原古墳群(西都原)

新田原古墳群(新富町)

佐伯古墳群(宮崎市)

写 真

写 真

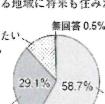
写 真

2 貢子さんたちのクラスでは、資料2をもとに、日本や地域の人口減少をおさえる対策について話し合いを行いました。次の(1)、(2)の問い合わせに答えなさい。

(2) 後の□には、AかBのどちらかを、□工□才には、その立場から適切な内容を書きなさい。

2人が発表したように、社会福祉と自然環境をめざしていくことが必要ですね。しかし、人口減少は宮崎県だけの問題ではありません。そこで、みなさん、次の資料A、Bのどちらかを選び、その立場から、日本や地域の人口減少をおさえる対策を考え、そのように考えた理由も述べてください。

資料A (社会福祉の立場)  
＜現在住んでいる地域に将来も住みたい若者の割合＞

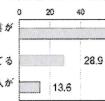


調査回答 0.5%

資料B (自然環境の立場)  
＜年齢階級別に非正規雇用(労働)者の割合(%)＞

	1990年	2000年	2017年
15～24歳	20.5	40.5	47.7
25～34歳	11.7	15.8	25.9
35～44歳	20.9	23.1	28.6

＜若者が住みよい町になるための条件＞



経済的にやっていく  
能力がある  
家族を持つ  
いつまでも若い人が  
多く住んでいる

＜子育てで不安に思っていること＞

	1990年	2000年	2017年
経済的にやっていける か	79.4	63.9	37.0
子育てをするのが大 変	28.9	12.8	13.6
子育てをする体力が ない	13.6	12.8	13.6

〔平成28年労働力調査・平成28年総務省・家計調査に関する意識調査報告書〕厚生労働省より作成

私は資料□を選びました。この資料から、私が考えた対策は、□工□才です。そのように考えた理由は、資料から、□才□です。



### <標準解答>

1 工

2 (2)

工
才

(Aの例) 地域における若者の安定した雇用を確保すること

(Bの例) 非正規雇用(労働)者の正社員化の実現を進めること

(Aの例) 地域からの若者の転出がおさえられ、定住につながると思うから

(Bの例) 経済的基盤が安定し、結婚や出産の希望が実現すると思うから

### <ねらい>

④の1は、資料の内容を読み取った上で、各分野における既習事項と関連付けながら正誤を判断する問題、2(2)は、選択した資料の内容を読み取った上で、人口減少をおさえる対策と、そのように考えた根拠を説明する問題である。

### <分析>

正答率は、1が29.1%、2(2)の工が61.1%、才が53.8%であった。課題としては、特に1については長文を読み、様々な知識をもとに正誤を判断する必要があるため、早く正確に読み解く力と、多面的・多角的に考察する力をいかに身に付けるかなどが考えられる。

### <提案>

授業では、各分野における基礎的・基本的な知識を活用する力を育成するため、現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を選択して多面的に考察し、適切に表現する能力や態度を育成していくなどの工夫が必要である。